

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立鳩山高等学校)

目指す学校像	普通科、情報管理科併置の利点を活かし、生徒一人一人を大切に教育を行い、地域とともに歩む元気な学校
--------	--

重点目標	1 キャリア教育の充実と達成感を高める学力の向上 2 基本的生活習慣とマナーの育成 3 活力ある学校行事と部活動を通じた自己管理能力の育成 4 地域の様々な機関との積極的な双方向での連携強化
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	12名

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価 (2月 1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策	
1	○国語の段階的な漢字学習や数学の達成度確認テストの実施等、学び直しの取組が定着し、少しずつ成果をあげている。 ○教員の授業力向上のため、授業アンケートに基づき、教科内で検討をする必要がある。 ○インターンシップの定着を中心とし、事前・事後学習の充実を図り、引き続き、キャリア教育を計画的かつ組織的に進める。	○「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善を行い、基礎学力を定着させる。	①授業における学び直しの取組や学習サポーターの効果的な活用を図る。 ②教科を超えた教員相互の授業観察を実施し、実践を共有する。 ③体験学習や各種検定への取組み、課題や小テスト等により生徒の内発的な学習を促す。	①学び直しの実施状況と達成度確認テストの得点率が上昇したか。 ②教科を超えた授業アンケートの分析や教科を超えた授業観察を授業に反映したか。 ③生徒の授業以外の学習時間が伸び、課題の提出率が向上したか。	各教科で学び直しを意識した授業を展開し、3年生はほぼ100%進路を決定した。 ①数学の同一問題による確認テストで得点率が1年37.0% (1年) 47.7% (2年) 52.6% (3年) と確実に上昇 ②年次研修者を中心に教科を超えた授業観察を実施 ③「平日、全く学習をしない」64.6%、「課題等をきちんと提出している」74.0%と変化なし	B	学習サポーターの勤務は今年度340時間であり、教科や活用方法をさらに検討する。また、高大接続改革による基礎学力の測定ツールの検討が必要である。 次年度も教員間の学び合いを通じて授業のさらなる改善に取り組む。
		○目標と職業観を持った生徒を育成する。	①インターンシップを主軸に、体験学習の事前・事後学習の充実を図る。 ②3年間を見通したキャリア全体計画・進路計画を立案し、実施する。	①事後のアンケート調査結果を生徒の進路意識向上に活用したか。 ②進路決定率100%を達成できたか。	①2学年におけるインターンシップ事後指導として新たに地元企業説明会・発表会を2月に実施 ②進路決定率は100%	A	進路決定率100%が継続できるような1年次からの指導を今後も重ねる。指定校情報や進路状況を積極的に広報する。
2	○基本的生活習慣・マナーを身に付けさせるため、本校の強みであるきめ細やかな指導、ボランティア活動を通じた心の育成に引き続き力を入れる。 ○ステップアップ・プロジェクトの柱となる生徒に自信を持たせる取組をさらに充実させる。	○個に応じた指導方法を検討し、基本的生活習慣・マナーを身に付けさせる。	①日々の教育活動を通じて、挨拶、マナー身だしなみ等の指導を毅然とした姿勢で年間を通して継続的に行う。 ②外部機関やスクールカウンセラー・巡回支援員と連携し、相談体制を整え、きめ細やかな指導を展開する。	①学校全体で継続的に毅然とした態度で指導できたか。 ②外部機関との連携や専門家の活用が生徒への指導に活用できたか。	生徒は落ち着いた学校生活を送っており、成果が見られる。 ①学年・生徒指導部を中心に組織的に年間を通して指導 ②スクールカウンセラー年間22日・巡回支援員年間8日間訪問。個々の生徒理解・きめ細やかな指導に活用	A	バスの乗車マナー等の定着や自発的な挨拶ができるように指導を重ねる。
		○県の事業を活用したボランティア活動等により心の成長を促す。	①県指定事業を活用したボランティア活動をはじめ、多様な体験活動を実施して人間関係を構築し、活動意欲を喚起する。	①体験活動により成長を実感した生徒の比率が上昇したか。	①事後の生徒アンケートから参加者のほぼ全員が成長を実感。生徒会が地域活性化を目指した新たなボランティア活動を計画	A	参加生徒が固定化している面がある。生徒全体の意識の醸成を今後も図り、参加を促す。
3	○活力ある学校行事を目指した取組は、成果を上げている。生徒会中心に更なる継続的な取組を行う。 ○部活動の加入率を高め、活性化に向けた取組を工夫する必要がある。	○生徒会中心に生徒の主体的な取組による学校行事を実施し、生徒の意識を高める。	①文化祭等の学校行事を生徒主体に実施し、学校行事に対する生徒の参加意欲を高める。	①生徒アンケートにより主体的に関わった生徒が増加したか。	どの行事においても生徒会を中心にリハーサルを重ね、生徒主体の運営ができた。 ①文化祭後のアンケートで「積極的に取組めた」と回答した生徒が83%から84%に増加	A	生徒会が定例会を重ね、主体的な活動に向けて意欲的に取組んでいる。校外での活躍に対し、地域の方からも評価が高い。
		○部活動に参加する生徒を増やすための方策を研究する。	①部活動間の協働体制による取組を工夫し、保護者の協力を得て、活性化に対する方策をまとめる。 ②大会や発表会の様子を校外内に積極的に発信し、部活動を活性化させる。	①魅力ある部活動づくりに向け、加入率向上に向けた方策を立案できたか。 ②Webページの更新や学校新聞による広報を積極的に行うことができたか。	①中学生を招いた練習会等を計画・実施。 ②教務部・部活動顧問によるWebページの更新回数が増加。生徒募集部が学校新聞を年4回発行し、地域への回覧戸数を拡大NHK等によるテレビ放映2件	B	部活動の加入率向上に向け、さらに検討が必要である。 鳩山町との連携により今後も「広報はとやま」への掲載を継続する。
4	○本校が進める「実学を重視した学校づくり」についてさらに協議を深め、効果的な広報により生徒募集に結びつける。 ○文化祭や講演会の案内を地域へ配布し、地域との連携が進み、成果を上げている。さらに鳩山町との連携を計画的・組織的に進める。	○PTAの協力を得て、地域との連携を生かし、募集定員を確保する。	①中学校PTAを本校での説明会に誘致する。 ②「実学を重視した学校づくり」について方向性をまとめる。	①中学生の保護者の来校者数が増加したか。 ②学校案内の作成等、外部への説明に関する準備が整ったか。	座談会を実施する等、内容を工夫した説明会を実施したが志願者増につながっていない。 ①1月に鳩山中学校PTAが来校 ②今年度中の教育課程完成を目標に現在進行中	B	鳩山中学校PTAの訪問により、本校の理解促進に成果が見られた。さらに誘致を進める。
		○地域の機関との交流を深める双方向に連携し、本校の教育活動を理解いただく。	①本校での公開講座の実施や小・中学校や地域へ生徒・教員を派遣し、交流を深める。 ②鳩山町や地域の事業所等との連携を深め、本校での講演会等を実施し、地域の方の参加を促す。	①公開講座・交流事業の実施回数が増加し、参加生徒が目的を達成することができたか。 ②地域の教育資源を活用することができたか。	①新たに生徒による亀井小学校での学習支援を実施。交流に参加した児童・生徒が満足 ②新たに1・2学年で鳩山町コミュニティ・マルシェで福祉体験活動を計画	A	「実学を重視した学校づくり」を推進し、町になくはならない学校となるようさらに双方向の連携を深める。

○授業観察をさせていただいたが、生徒は落ち着いて授業に取り組んでおり、少人数授業も効果的である。

○今後も企業が求める職種と生徒の希望とのマッチングを意識したインターンシップを重視していただきたい。

○鳩山にしかない地域資源を大いに活用し、講師を依頼する等の計画を立案いただきたい。

○生徒会が立案した地域でのボランティア活動となる「ハトミライ☆プロジェクト」は素晴らしい。ぜひ、地域の活性化を目標に進めていただきたい。地域でのボランティア活動によりさら交流を深めていただきたい。

○生徒一人ひとりの役割を明確にする等の方策を考え、行事を全体で運営していくことを考えたい。

○様々な学校行事に参加したが、生徒会を中心とし立派に運営をしている。ぜひこれを続けていただきたい。

○部活動については加入率が上昇しない原因を探り、数値目標を明確に掲げ、その実現に向けて努力していただきたい。部活動は生徒の成長につながる。

○元気で明るい生徒の取組を新聞社やテレビ局等に取材依頼をし、PRをしていくことが必要である。

○鳩高生は道路の清掃や雪かき等でも地域に貢献しており、大変に立派である。この様子を町民との交流によりさらに理解していただくことが必要である。

○生徒が地域行事に参加することにより良い関係ができていく。「学校は地域とともに歩む。」と考えており、地域になくはならない学校を今後も目指していただきたい。

